

歌

焚火は消され 血の痕は散はれ
もう唄うまい かなしは 満ち足りて 夢を望みよ

おまえの頭に向うのは ラッパを 舞く 田舎場
裸で追はれ 舞はれ 踊る乙女

おまえの肩にのりめくは アトはの 烟に包まれ
練瓦の下で ニホニの少女が 振った腕

あゝ 愛する中々に忘れぬ
おまえのなかり かずかずの 宵夜のよう

ゆなしは唄はう ゆなしの憂は はたはたと 鳴る夜の旗
武器を押しやよ せんごの眼

火が消され 血が散はれ ちやう中々に
願はくは すてこの 未来の魂へ たえかなく 痛みが 用意され

いまはただ あげほのの 光りのために
眼覚めの 涙を もつように